

2023-7-30

# ふじさわ・九条の会ニュース



No.73

発行人 ふじさわ・九条の会事務局長 吉塚晴夫 090-7949-9854

HP(ホームページ) <https://fujisawa9jo.org>

検索「ふじさわ・九条の会」でも開けます。



## 戦後最低の国会で、最低の国家の中で。 (吉塚 晴夫)

6/21に閉会した国会は戦後最低の国会であった。軍拡財源法、軍需産業支援法(立憲民主も賛成)、改悪入管法、原発推進束ね5法、マイナンバーカード保険証強要法、改悪LGBT法といった生活を破壊し差別を温存し、戦争にひた走するような悪法が審議も尽くされず、また改悪入管法は立法根拠が虚偽であることが明瞭になったにも拘らず、採決が強行された。戦前の入管政策は特高警察が実務を担っていた。外国人は取り締まりの対象でしかなかった。今回の改悪は戦前への逆行である。この国家ぐるみのレイシズムを許してはならない。最早国会は政府方針の追認機関と化した。既に大政翼賛会である。国会は「国権の最高機関」である。それが戦後最低というべき体たらくを曝している。戦後の日本国家が最低に墮した、ということではないだろうか。

### ・この国と世界の異常な事

ウクライナの戦争にアメリカは「クラスター爆弾」を供与することを決めた。クラスター爆弾は無数の子爆弾を広範囲に撒き散らし、人を殺傷する残虐な兵器である。(兵器は全て効率的に人を殺傷するものであり、残虐でない兵器などない)国際条約で禁止されている。不発弾の割合が高くその地域に多数の子爆弾が残り、戦闘終了後もその国の子どもや市民が多大の被害を受けている。スナク英首相はバイデンに「この非人道的兵器の供与に反対だ」と言ったそうだが、スナクはその前にはウクライナに「劣化ウラン弾」を供与している。クラスター爆弾は非人道的だが劣化ウラン弾はそうではない、ということなのだろうか。バイデンは「なるべく不発弾になる可能性の低いものを選んで供与する」と言ったそうだが、呆れた発言である。バイデンは場合によっては不発弾の高い割合のものを、選んで使うことがあるということだ。カンボジアのフンセン首相は「地雷やクラスター弾で今も苦しむ我が国の経験を、ウクライ

ナが経験してはならない」と語った。岸田政権はクラスター弾の供与を容認する。政権お得意の「各国に法の支配の重要性を訴える。」という台詞は何処へ投げ捨てたのか。

### ・この国の貧困

学校が夏休みになる。学校給食が唯一の、まともな食事であるという子どもたち、親たちにとって苦痛の時間が始まる。あらゆる物価が値上がりし、7月から電気代も上がった。所謂「子ども食堂」が全国で7,363か所となった(2023年2月)。これは飢えの拡大を示すものであり、困難な状態にある子ども、家庭に援助の手を差し伸べようと、市民有志が強い思いで始めたのがこの数字として表れている。一般に所得中央値の二分の一の所得額を貧困ラインとするが、その額は現在127万円ということだ。シングルマザーの家庭は押しなべて相対的貧困状態にあるが、この金額で生活できるものだろうか。岸田政権は「異次元の少子化対策」というが、先ず目の前の子どもたちの貧困状態を救済すべきではないのか。子どもや高齢者対策、社会保障というと、先ず財源をどうするのか、ということから始まる。「国民の生命財産を守る」ための防衛費というが日々の生活、生命の維持を脅かされている国民を救済するのが先決ではないのか。

### ・この国は「法治国家」なのか。

死刑囚として57年間も牢獄に閉じ込められた袴田巖さんの再審が始まる。高裁で再審開始が決定され、検察は抗告せずに再審を受け入れた。にもかかわらず有罪立証をするということだ。捜査機関の証拠捏造の疑いさえ指摘されている中で、味噌漬け衣類の血痕について補充捜査をおこなう、新たな鑑定を求めるといふのだ。これは高齢の袴田さんの死を待っているのではないのか。検察の面子と人の命とどちらが大事なのか。「我が国は法治国家」という政府の言い草が空しく響く。

## 若者を応援しよう!!

毎週金曜日に一般紙に折り込まれてくるミニコミ誌「タウンニュース」の6月23日号。「防衛費増税『政府にNOを』』という見出しに目を奪われました。若者二人の写真もあったからです。記事によれば、政治に無関心だった若者が、コロナ禍の中でニュースを通して政治に関心が向き、知れば知るほど国民が置き去りにされていることや税金に苦しめられている生活の中でいろいろ学ぼううちに、自分たちの思いを請願という形で議会に提出できることを知ったそうです。そこで「『防衛力強化』のための増税方針撤回を日本政府に求める意見書提出についての請願」を藤沢市議会に提出したとのこと。私たち市民運動の仲間では無く、21歳の若者が自らの生活実感から出た思いを請願に託して市議会に届けたのです。この記事を読んで、まさに「知ることは希望」という、若者から圧倒的な支持を受けている環境活動家武本匡弘さんの言葉が浮かびました。この二人は政治について知ることによって要求を行動に移すことができたのです。請願が不採択になっても「増税を将来支えるのも、戦争になって駆り出されるのも若者世代なので、同世代にもっと政治に関心を持ってもらいたい。声を上げていいんだと伝えたい」とのこと。私たちが選んだ政治家によって若者たちの生活を将来にわたって苦しめてしまうことに私たちも思いをはせ、声を上げた若者を心から応援するとともに若者が希望の持てる政治に変えていかなければと強く思いました。

さらにタウンニュースの次号6月30日号記載のデスク・レポートは驚きをもって読みました。「政治参加に水を差す言動だ」という見出しで、若者提出の請願が審議された市議会総務常任委員会での公明党議員の発言がいかにもひどいものかの的確に批判しているのです。今まで私たちも市議会での請願、陳情提出の際に何度も聞かされた同会派の議員による同様の発言。若者がやむにやまねず出した請願審議の場で、あまりにも請願者を見下した発言にどれほど傷つけられたことか胸が痛みました。若者の政治離れを打ち破る行動をした今回の若者たちにエールを送っているタウンニュースにもエールを送りたいと思いました。

私たち市民運動の多くはメンバーの高齢化が問題になっています。若者との接点がなかなか見つからず、気候危機や年金など世代間での意識の違いがつながりを阻害しているように思います。

けれども生活が苦しく、軍備拡大よりも生活を守ってほしいという思いでは一致できるはずです。そこを突破口にしてこれから再度若者たちに声をかけようと思います。具体的には大軍拡、大増税反対に関して国会前や官邸前で抗議行動をする一方、地元でも9の日行動や「抗議の灯を絶やさない」などのスタンディングで市民に訴えています。若者たちに応援と連帯のメッセージを伝えるとともにこの地元行動への参加を呼び掛けてみたいと思っています。(島田 啓子)

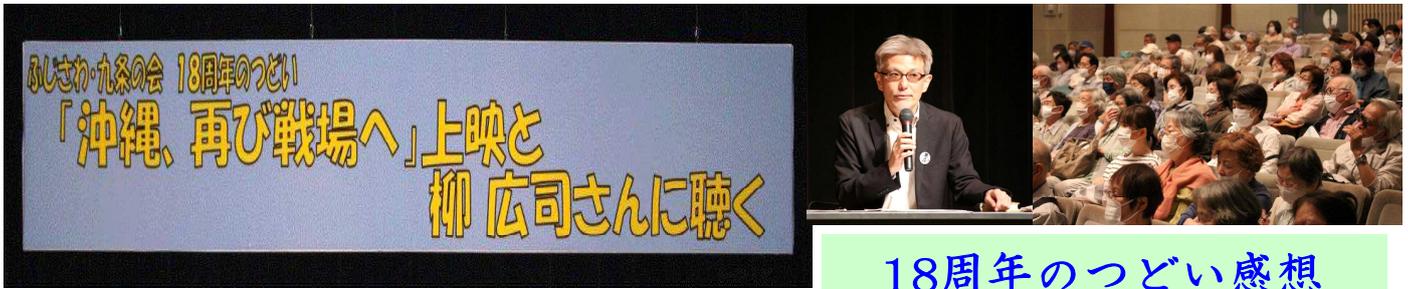
### お知らせ 「原発を止めた裁判長」 上映会

9月30日(土) Fプレイスホール

午前の部10:00～ 1500円(高校生以下1000円)

午後の部13:00～ 監督トークと元裁判長の講演付き  
2000円(高校生以下1800円)

詳細は同封チラシ参照。チケットご希望の方は島田(090-9239-0864)まで



## 18周年のつどい感想

三上智恵監督の『沖縄、再び戦場へ』の上映の後に、作家の柳広司さんとふじさわ九条の会代表の吉塚さんによる対談を拝聴させて頂きました。『沖縄、再び戦場へ』の映像には最前線の緊迫感が込められていて、ミサイルが発射されたとし避難訓練に参加する親子の姿がありました。子供たちは、どんな思いで参加しているのか。胸が締め付けられる思いでした。

上映後は、沖縄の本土復帰までの戦いを描いた『南風に乗る』の著者である柳広司さんと、吉塚さんによる対談でした。私は『南風に乗る』を読んだ後、何日も気持ちの整理がつきませんでした。平和運動の実効性に希望がもてなかったのです。しかし対談の中で柳さんは、今までの運動がなかったら辺野古はとっくに完成していたと、市民運動のもつ力のお話をされ、希望を見出すことができました。

18年間もの長い間活動をされてきた9条の会の皆さんから『不屈』の精神を教えてもらった1日となりました。  
(益永 由紀)

### 沖縄を再び戦場にしてなるものか

私は、「沖縄を再び戦場にしてなるものか」という気持ちで映画を見た。見終わって印象に残った映像は二つ。一つは自衛隊の戦車が街中の道路を我が物顔で通過した場面と、遠巻きに抗議の声を上げている十数人の人たち。二つ目は沖縄諸島から集まった県庁前集会に沖縄県知事の姿が見えなかったこと。この二つの映像にはアメリカ軍辺野古基地新設に反対する沖縄の姿とは違った空気を感じた。

私自身つい数か月前まで沖縄の辺野古新基地建設に反対する署名に取り組んできた。また 毎月19日の国会前集会でも沖縄の現状報告（例えば参議院の会派「沖縄の風」からのメッセージなど）はあるが、沖縄諸島を軍事的に支配（？）している自衛隊のあり方に反対する行動提起の声は聞こえてこない。沖縄諸島にミサイルを配備し、弾薬庫やシェルターをつくっていくこの自衛隊の在り方に抗議、反対する署名行動を始める必要があると思う。  
(斎藤隆夫)

### 沖縄へのこだわりと意思を表現する大切さ

つどいに参加して二人の対談で柳氏の言葉で心に残った事は2点です。

①沖縄では新しい基地の建設や自衛隊配備が進められています。本当に絶望しそうになる現実ですが、沖縄の人たちのたたかいはずっと続いているのも事実です。不屈の闘いという瀬長亀次郎さんですが、本人は沖縄の闘いが私を育てたのだと言っています。不屈の闘いには明日があります。

②飢えた子どものことを書かなければもっと増えるでしょう。権力は腐っていると言い続けることが未来に繋がるのです。「九条を守ろう」と主張する事が大切ではないでしょうか。分かりやすくみんなに届く豊かな日本語で届けたいものです。自分たちで集まって声を上げるみなさんの活動に学びながら、私も歩んでいきます。  
(明治地域九条の会 宮本忠彦)

三上智恵監督の沖縄県民の新基地建設反対・ミサイル基地建設反対の映像を見て胸が締め付けられました。県民の抗議の座り込みを機動隊員が問答無用とばかり排除する姿に本当に許せないと怒りがこみ上げてきました。現在の沖縄は県民の反対世論や人権を無視した蛮行が日常的に行なわれていることがはっきりわかりました。この映画はまだ未完成だと聞いています。完成した映画をしっかりと見たいと思います。

柳広司さんの対談風のインタビュー、とてもよかったです。沖縄に何度も足を運び、本土復帰の島ぐるみの闘いの経過・平和と暮らしを守る闘いを詳しく話されました。県民の声をアメリカ政府に要望するのではなく、アメリカの言い分通りに事を進めようとしている岸田政権の弱腰の態度を厳しく指摘、民主主義を踏み にじり、『すべてを「自己責任」というなら国家はいらない』と訴えられました。まさに「沖縄を再び戦場にすな」。沖縄と連帯して戦争反対、平和を守れの思いを強くしました。(湘南大庭九条の会 品川邦之)

# 沖縄辺野古基地建設～安和～塩川から見えるもの

プロダイバー・環境活動家 武本匡弘

日本が見える：

民意を顧みず工事が進められている辺野古基地建設の現場には、連日反対への支援に多くの人が訪れています。

ゲート前の阻止行動や、テント村での交流などを経験しながらこの暴挙に対する強い怒りが沸き上がると共に、ここで起きている事は決して沖縄の問題ではなく「これが日本だ！」ということ、つまり日本が見えるのです。

丘から辺野古大浦湾を見ると、沖に浮かぶ土砂運搬船の数に驚きます。

大戦末期、硫黄島を攻略するために米軍の艦船が無数に沖に浮かぶ姿を想像したと言った人がいます。

同時にこんなに多くの運搬船が運んでくる土砂はどこからやって来るのだろう？という疑問が湧いてきます。土砂搬出の現場は辺野古から意外と近い場所から運ばれているのです。



「ゲート前行動」

安和・塩川：(あわ・しおかわ)

辺野古から車で3～40分ほどの距離にある本部半島（もとぶ）の山から削られた土砂は、ダンプに積み込まれ名護市安和棧橋と本部町塩川港で運搬船に積み替えられ、辺野古へ運ばれる。

ここでダンプ1台でも減らすための抗議行動が連日行われています。



地図



ダンプの勤務は一日何回運んだというノルマではなく時間勤務という事なので、無理な運転や、止められたからと言ってイライラする運転手はいないように聞く。

実際ウインド越しに見える運転手の顔は、時には高齢者の抗議者に対しての労わりのまなざしの様に感じられ、埋め立てを少しでも遅らせたいという気持ちを理解してくれているようにも見える。

しかし、安和棧橋は朝7時から夜8時まで13時間もの作業、トイレもままならず長くてつらい…。

その方法は「牛歩」、ゆっくりと歩道を横断。止まってくれるダンプの運転手の顔に向かって「ありがとう！」と必ず礼をする。

ダンプの台数は一日延べ最大で1,200台ほど、それを出入り口でゆっくり歩いて横断することで800～900台に抑えている。塩川では夕方5時まで述べ最大900台ほどあり、こちらも抗議行動で200台前後の減少という成果を上げている。

これらゆっくり歩く行動と、カヌーによる運搬船出港を遅らせる海上阻止行動などで2018年12月からの4年間で全体の埋め立て土砂量の13%程度しか進んでいない（23年2月）

地球環境破壊の様子が見える：

写真はこれらの土砂の掘削現場、山がどんどん削られて行く様子が解ります

現在の埋め立ての土砂量が2割にも満たないとしたら、この先辺野古基地の埋め立て工事が完了するころには幾つもの山々が消えてしまうということを意味します。

しかも目の間に広がる本部（もとぶ）の海も、山がなくなると共に確実に死に向かう海となり「全ての軍事行動は地球の自然環境を破壊し、気候危機を加速させる」という現実が正にここにあり、ひたすら山を削ってその土砂を海に捨てるという愚かな行為を目撃することになるのです。



海底の軟弱地盤によって「辺野古基地は不可能」という現実と、終わりの見えない土砂投入工事、「これは土建屋のための工事じゃないか！」という声が支援者から聞こえてきます。正にゼネコン国家ニッポン！の姿そのものです。

気候危機に立ち向かう行動を始めた人も、核廃絶平和運動を続けてきた人も辺野古～安和～塩川のそれぞれの現場に身を置くと、その地球破壊の構図が全て連環して見えてくるのだと僕は思っています。

人が見える：

安和の抗議行動に初めて訪れた時の事、妻が自分の母親と同じほどの年齢の抗議者達がダンプトラックを止めている姿を見て号泣したのです。

ところが、一緒に牛歩行動を始めた時、オバアから「あんた、早すぎるよ！」と言われてしまい、普段忙しく"せかせか歩く"ことしかやっていない私達には意外と難しいのです。

おかしかったのは、いつものオジイ、オバア達と比べ明らかに"若めの女性"である妻の姿に何と機動隊員の排除行動がまるでエスコートする紳士の様ではありませんか？（写真）

立場は敵対関係の様だけれども「上司が見ているので、申し訳ないですが背中を押しますね」と言った機動隊員、周りに誰もいなかった時に「妻が今妊娠7か月なんです」と言ってきて戸惑ったという話も聞いた。

その時、思わず「出産のときは休暇を取って脇に居て奥さんの手を取ってあげるといいよ」と答えたとのことでした。

命がけて声を上げる行動という極限の状況ではあるけれども、やはりそこで見えるのは、「人」とであると僕は思いたい。



妻を"エスコート" (?) する機動隊員

運動はしたたかに、永く、あきらめない！

僕自身のこの運動での目標はもちろん基地建設即刻中止！

しかし、もっと多くの若者達が、「行動に参加したい！」と競って現場に駆け付けるほどのアイデア、ダンプの運転手も機動隊も「これはいい！」と思える抗議行動の実現は夢だ。

それは、コスプレに情熱をかける若者達にとって安和、塩川が彼らの聖地になることだ！

自慢のコスプレ衣装を着てゆっくり道路を横断し、ポーズをとり注目を浴びる、世界中からそれを見に多くの外国人が訪れ、本土のメディアも連日取り上げる。

夢のような話、いやそれ以前に「不謹慎」と言われるかもしれない。

でも、牛歩もできなくなる歳まで声を上げ続ける決意である自分にとって、けっこうまじめに考えている。

是非、辺野古、そして安和、塩川にもお出かけ下さい。

## 青年の個人情報の名簿を自衛隊に送る？

〔持田早苗〕

### 自衛官募集についての自治体の情報提供の状況



※防衛省まとめ。自治体総数は2013年度は1748市区町村、それ以降は1747市区町村

(赤旗新聞 2023年4月9日より)

防衛省によると、住民基本台帳に記載されている18歳と22歳の男女の「氏名」「住所」「生年月日」「性別」の4情報を、電子や紙媒体で自衛隊に提供した自治体は、2021年度、全国1747市区町村中962となりました。そして、2022年度に電子や紙媒体で、名簿を提供した自治体は6割を超える見通しだそうです。※左のグラフ参照

この動きの直接のきっかけは、2019年2月に、当時の安倍首相が、「自衛隊募集について、自治体の6割以上が協力を拒否している。残念だ。」と発言したのがきっかけでした。2020年12月には閣議決定で「市区町村長が、住民基本台帳の一部写しを提出することは可能であることを明確化」しました。さらに、防衛省と総務省は「防衛相が市区町村長に、一部写しの提出を求める

ことができる。」という通知を出したのです。

相模原市は、これまで閲覧によって書き写していたものを、2022年6月、自衛官該当年齢の18歳の市在住男女約6000名の個人情報を、タックシール（宛名シール）にまでして、自衛隊に提供しています。

### <自衛隊募集業務に対する神奈川県内の33自治体の対応> (朝日新聞 2022年10月29日より)

対象者を抽出し、名簿を提供	横浜市 川崎市 相模原市 横須賀市 小田原市 南足柄市 湯河原町
対象者を抽出し、名簿閲覧を認める	平塚市 鎌倉市 三浦市 秦野市 伊勢原市 座間市 葉山町 寒川町 中井町 大井町 松田町 山北町 開成町 箱根町 真鶴町
対象者を抽出せず、名簿閲覧を認める	藤沢市 茅ヶ崎市 逗子市 厚木市 大和市 海老名市 綾瀬市 愛川町 大磯町 二宮町 清川村
提供や閲覧を認めない	なし

22年度の陸海空自衛隊の採用では、採用計画（9245人）の40%台後半にとどまっています。パワハラ、セクハラに関する相談件数は4年間で7倍にも急増し、何よりも安保法制で憲法の解釈を一方的に変更した今、自衛隊は、戦地に行って「戦う自衛隊」となっています。

本人の同意なしに、自治体が住民基本台帳の名簿を自衛隊に提供すること、電子媒体や紙媒体での提供をすることなどは、プライバシー権をおかす大問題です。名簿の提供に協力するような藤沢市にはしてはならないと思います。藤沢市議会で、市は「自衛官募集に、住民基本台帳の紙媒体での提供はやめるべき」という質問に対して、「関係法令の趣旨を踏まえ、個人情報保護にも十分留意した上で、適切に判断」と答弁するのみでした。今後も大きな運動で、自衛隊へ名簿提供をさせないようにしましょう。

◆ 8月20日（日）ふじさわ9条の会世話人会：（相模原から）名簿提出問題ミニ学習会  
13：30～市民活動推進センター どうぞご参加下さい。一緒に考えましょう。